

アメリカ穀物協会は、生育期に焦点をあてた2016年度トウモロコシ生産ビデオシリーズ3作目を発表しました。

アメリカ穀物協会 (USGC) は、2016年米国トウモロコシ生育期の詳細をビデオシリーズで時系列的に紹介していますが、その3作目を現在オンラインで公開しています。このビデオでは、アーカンソー州やミズーリ州、サウスダコタ州、ウィンスコン州の農場の状況を主に紹介しています。

このビデオはオンライン <http://tinyurl.com/CornGrow2016> で見るすることができます。

7月上旬、米国コーンベルト地帯で受粉が終了すると、ほとんどの生産者は最初の収穫予想をすることができるようになりました。

「今回初めてトウモロコシ畑に入って穂部分の粒を観察し、この秋の収量を予測することができるようになりました」と、ミズーリ州の生産者、ゲアリー・ポーター氏は言います。「確定していることはまだ何もありませんが、収量の見通しを立てることはできません」

米国のコーンベルトのほとんどの地域はこの春期と夏期、生育に適した気候に恵まれ、そのおかげで受粉状況も良好です。

「素晴らしいできればです」。ウィスコンシン州の生産者であるケイシー・ケラハー氏は言います。「トウモロコシは穂をつけ粒はそろっています。あとは少し雨が降ればいいのですが」

生産者の多くは、タイミングよく雨が降るのを待つだけでなく、作物に害虫や病気が発生していないか目を配っています。

「大事なものは茎を健康に保つことです」とアーカンソー州の生産者、トミー・ヤング氏は言います。「確実に葉の健康を守るようにして、収穫期まで茎が頑丈で緑のまま残って欲しいと思っています」

コーンベルト北部にあるサウスダコタ州の生産者、ライアン・ワグナー氏もまた上質で実りの多い収穫を迎えられるよう作物を注意深く見守っています。

「トウモロコシについては時折発生する害虫圧力を全く見かけません」とワグナー氏。「しかし、生育期はまだ始まったばかりです。そのようなことは後期に発生するものです」

ワグナー氏は慎重な見方をしていますが、それに対してポーター氏は終始楽観的です。

「今年はとてつもない豊作になると思っています」ポーター氏は言います。

晩秋に公開予定のビデオシリーズ次回作では、ここで紹介したトウモロコシ生産者の最終的な収量をお知らせします。■

U.S. Grains Council
Email: grains@grains.org
www.grains.org

 @usgc

 /usgrainscouncil

 /usgrainscouncil

U.S. Headquarters

20 F Street NW
Suite 600
Washington, DC 20001
202.789.0789 TEL
202.898.0522 FAX

アメリカ穀物協会 日本事務所

〒105-0001
東京都港区虎ノ門1-2-20
第3虎の門電気ビル11階
TEL: 03-6206-1041
FAX: 03-6205-4960
EMAIL: grainsjp@gol.com

Developing
Markets.

Enabling
Trade.

Improving
Lives.